令和6年度全国学力学習状況調査等の分析

全国学力学習状況調査（6年生で実施）より

全体正答率

教科担任制（R3〜R6）

		H31	R2	R3	R4	R5	R6
国語	本校	61	新型コロナウイルス感染症のため未実施	62	69	71	70
	国	64.0		64.9	65.8	67.4	67.7
	都	65		68	69	69	70
	都との差	▲4		▲6	0	2	0
算数	本校	70		68	64	66	61
	国	66.7		70.3	63.3	62.7	63.4
	都	70		74	67	67	68
	都との差	0		▲6	▲3	▲1	▲7

Ｒ5とＲ6の正答率を比べると、国語・算数ともに下がった。

問題形式別正答率

選択式の問題の正答率

教科担任制（R3〜R6）

		H31	R2	R3	R4	R5	R6
国語	本校	73.9	新型コロナウイルス感染症のため未実施	71.7	76.6	79.2	73.2
	国	75.2		71.9	71.9	73.7	69.9
	都	76.7		75.6	75.3	75.9	73.0
	都との差	▲2.8		▲3.9	1.3	3.3	0.2
算数	本校	79.8		74	53.4	60.7	73.4
	国	75.8		76.2	73.9	57.9	75.3
	都	78.1		80.1	56.7	63.2	79.2
	都との差	1.7		▲6.1	▲3.3	▲2.5	▲5.8

短答式の問題の正答率

教科担任制（R3〜R6）

		H31	R2	R3	R4	R5	R6
国語	本校	45	新型コロナウイルス感染症のため未実施	64.6	60.7	68.1	58.7
	国	48.9		70.7	63.8	62.9	59.7
	都	51.1		71.3	65.7	66.4	63.1
	都との差	▲6.1		▲6.7	▲5	1.7	▲4.4
算数	本校	77.1		73.6	75.3	78.5	60.2
	国	73.0		75.9	70.7	74.9	62.0
	都	76.4		79.1	80.6	78	67.6
	都との差	0.7		▲5.5	▲5.3	0.5	▲7.4

記述式の問題の正答率

教科担任制（R3〜R6）

教科		H31	R2	R3	R4	R5	R6
国語	本校	50.0	新型コロナウイルス感染症のため未実施	35.7	56.8	46.9	64.8
	国	57.8		40.4	51.4	51.2	64.6
	都	57.2		44.2	53.9	51.4	63.7
	都との差	▲7.2		▲8.5	2.9	▲4.5	▲1.1
算数	本校	48.0		49.4	61.2	49.8	46.1
	国	47.6		53.2	57.7	47.6	51.0
	都	51.5		56.2	62.7	52.4	55.1
	都との差	▲3.5		▲6.8	▲1.5	▲2.4	▲9

- 国語は都平均と同じであった。正答率の内約を見ると、短答式の問題の正答率が低く、中でも漢字の書き替えや文法問題の正答率が低かった。また、文章を読んで人物像や物語の全体像を考える問題の正答率が低かった。
- 算数は都平均を７ポイント下回っている。中でも記述式の問題は都平均を９ポイントと大きく下回っている。正答率の内約を見ると、「除数と商の大きさの関係の理解」「球の大きさから、立方体の体積を式に表す」「角柱の面の求め方とその理由を記述する」「グラフから数値を読み取り、記述する」といった問題の正答率が低かった。また、思考・判断・表現の問題は正答率が５０％を切っている。
- 質問紙の結果を見ると、国語・算数の勉強に対して「大切だと思う」「将来、社会に出たときに役に立つと思う」と感じている児童が９割である一方で、国語・算数の勉強を「とても好き」と感じている児童がと平均を下回っていた。また、「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」という質問に対して 76.3%の児童が肯定的な回答をしており、「先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。」という質問に対して 82.2%の児童が肯定的な回答をした。これらの結果はいずれも都平均を下回っているため、学習したことの習熟の時間や振り返りの時間を見直す必要があることがわきあった。
- 算数の基本的な理解の定着を図るため、算数の授業の５分間を使って習熟問題を解く、朝の時間を活用して算数カルテに取り組む、授業計画を見直し習熟の時間を多くする、といった手立てが必要である。